

大学婦人協会報

本協会は女子の大学卒業者を結合し、以て社会生活改善を計り併せて国際理解と親善に盡すことを目的とする

1、女子の大学教育推進並びに研究助成のため奨学金に
2、その他本会の目的達成のため必要な事業

東京都渋谷区千駄谷一ノ五六二
津田英語会構内
大学婦人協会
発行日 昭和31年3月25日
発行人 杉森美代子
(第二号)

才十回定期總會

と き 四月三日(火)午前十時〜午後四時
九時十分・全三十分・全五十分・十時三十分(バス発車)

と ころ 津田塾大学国分寺駅下車バス十分

一、開会の辞
二、会長挨拶
三、本部役員並びに各委員長報告
四、議事

1、年度計画案
イ、前年度計画の推進
ロ、会員の増加運動促進
ハ、「女子大学案内」作製出版の件
ニ、外国人への奨学金制度設定の件
三、規約改正の件
四、加盟大学増加の件
五、支部提出議題の討議
六、来年度總會の会場を決定する件
七、食事懇談
八、閉会の辞

安倍龍成先生講演(二時半より)
尚、四月二日午後五時半より八時半まで、椿山荘において本部役員、支部長及び会員有志で、總會準備委員会を開きます。本部役員は四時より来ておりますから、お早目においで下さいまして結構でございます。

昭和三十年年度国外(第二)奨学金委員会審査及び経過報告

委員長 阿武喜美

九月十五日、山崎会長とともに野見山前会長に会い、過去二年間の審査方針と経過をきき、記録をうけ取った。

九月二十四日、千駄ヶ谷に於いて準備委員会を開く。会長、井上副会長、高野国際委員長、阿武、小川文代氏出席。国外奨学金委員会の委員の構成について相談し次の様に決定し、依頼することにした。

◎本部から五名
奨学金委員長(お茶の水大)
会長(津田大)
副会長二名(東京女大、奈良女大)
国際委員長(津田大)
◎東京支部長及び東京在住の学識経験者五名
◎東京支部長(お茶の水大)家政学小川文代(奈良女大)共立女子大教授・動物学

九月三十日、千駄ヶ谷にて十時から夕刻まで、才一回委員会書類審査を行った。出願者七名(八名あつたが一名は会員になつてから一年未満であつたので審査の対象からはずした)出席者八名。本部役員(井上、高野、阿武、東京在住者(大島、野見山、松村、小川)地方支部(白根名古屋支部)等、どういふ観点から候補者をえらぶべきか、審査方針について、意見を交換し具体的に話し合つた。その結果、フルブライトの奨学金方法を参考にして、学問上の業績と社会的地位、従つて帰国後の日本の社会への影響と寄与とかいふことを書類によつて審査し、これに五十パーセントのウエイトを、専門に必要な語学の力を、人物と、専門に必要な語学の力を、五十パーセントとする。重視したのは、外国に留学することによつて、真に効果をあげ得られる人を選びたいということであつた。従つてそういう観点から学歴、研究業績と留学目的との関係を詳細に検討した。書類は各委員に、全候補者に対し各自の推薦順位に従つて番号をつけていた。その合

本部役員候補者

本年度選出すべき役員には、各部で計六名の方が、候補者として推薦されたが、副会長候補、石塚富士子氏(お茶の水女大)書記候補、藤田澄子氏(津田塾大)会計候補、小川静子氏(お茶の水女大)の三氏が辞退を申し出られたので、次の三氏となつた。

副会長候補者
鈴木布美氏(日本女大)
書記候補者
服部広子氏(東京女大)
会計候補者
加藤ハツ子氏(奈良女大)

閣して追加御願

右に応募される方は是非次の書類をおさえ頂きたい。お願致します。一、学歴・職歴等を記した日本語の履歴書を一通。
二、(1)研究業績 研究分野 研究歴 (2)留学の目的並に抱負、外国における研究計画及び帰国後の計画等については、特に日本語で詳しく記したものをそれぞれ一通。

これらのものは書類審査の際に要な参考になりますから必ず御提出下さるよう願ひ者にお傳へ下さい。

十月三十日、千駄ヶ谷にて十時から夕刻まで、才一回委員会書類審査を行った。出願者七名(八名あつたが一名は会員になつてから一年未満であつたので審査の対象からはずした)出席者八名。本部役員(井上、高野、阿武、東京在住者(大島、野見山、松村、小川)地方支部(白根名古屋支部)等、どういふ観点から候補者をえらぶべきか、審査方針について、意見を交換し具体的に話し合つた。その結果、フルブライトの奨学金方法を参考にして、学問上の業績と社会的地位、従つて帰国後の日本の社会への影響と寄与とかいふことを書類によつて審査し、これに五十パーセントのウエイトを、専門に必要な語学の力を、人物と、専門に必要な語学の力を、五十パーセントとする。重視したのは、外国に留学することによつて、真に効果をあげ得られる人を選びたいということであつた。従つてそういう観点から学歴、研究業績と留学目的との関係を詳細に検討した。書類は各委員に、全候補者に対し各自の推薦順位に従つて番号をつけていた。その合

計の最小の数の人を一位とし、以下七位までの順位をきめた。今回は出願者が少なかつたので、書類審査は全員合格とした。

十一月十二日、お茶の水女子大学で面接と語学のテストを行った。語学テストは米國大使館のドクタール・ドナ・フェルドマン(元アイオワ州立大学講師)に依頼した。出席者 山崎、井上、野見山、高野、藤田、阿武、小川、野見山、松本、松村、大島(九名)

受験者六名(一名病欠のため)
語学のテストの結果と面接の結果から、前回同様各委員に推薦順位をつけていただき、前回同様、数の小さい人から順位をつけ、更に前回の書類審査の順位と合算して、語学については、各自の専攻と留学目的に対して語学力が充分か否かという点を慎重に検討した。その結果、三位までをアメリカへ推薦することになつた。健康の点については、レントゲン写真をとつてもいい、東大の専門医に特に詳細な検査を依頼し、皆非常に健康であることをたしかめてから、推薦した。

昭和三十一年一月二十六日付でAAUWから、坂宏子、中山久子の二名に奨学金を与えるという通知がきた。

国外奨学金委員長としての反省

1、委員長の任期は二年以内としそれ以上続けないことが望ましい。従つて再任する場合も、ある期間をおくこと。
2、委員も二年以上しないこと。但し、全員替つては見当がつかないから半数交替はいいがどうか。
3、副委員長があることが望ましい。委員の中から一人をそれにあてたい。
4、委員の構成は本年の方針の様に各委員の出身校及び専門分野が偏らぬことが望ましい。
5、書類審査が一日で完了したのはおもしろくない。委員会は二度開いて、初めの日にはよく読んで検討し、二回目に票決する方が考える時間が充分あつてよいと思う。

6、年齢制限がないから、同じ位の条件の人がいる場合は、中堅層の方を若い人よりもさきにする方が、JAUWとしては望ましいのではないか。経験がありしかも要求があるという意味である。若い人には他にも機会があることであるから。
7、応募資格は厳守すること。
8、奨学金に際して、語学力と専門分野との関係を充分に考えること。人文社会科学系の学科を専攻される人には非常な語学力が要求されるのに対し、自然科学系の学科を専攻される人には文学を専攻する人に対するほど一般語学に対する力は要求されなくてもよいと思う。つまり外国に於いて自分の専攻する学科力を勉強するために充分な語学力があるか否か、ということが最も重要な問題である。従つて応募者は、外国へ行つてからのテーマと語学力を充分に考えて応募されるのが望ましい。
9、語学のテストをしてもらう外人については、本年度はどの女子大学にも直接関係のない、学識ある米國婦人ということに依頼したが、これは今後もこうありたいと思う。
10、なお、これからの委員の方々には研究を重ねていただき、最も合理的で公平なよい審査方法を確立することを希望する。

参考として、左に今回までのAAUW奨学金受領者の出身学校別及び専門分野別の一覧表を示す。なお、この経過は十二月末の本部役員会に於いて一應報告したものである。

奨学金第一部委員会報告

委員長 辻 ときよ

三十年度国内奨学金の授与式は既報の如く去る一月十五日(成人の日)に行われた。此の日は、来賓の御臨席を辱うし又その上、東京女子大学学長高木貞二先生の講演をはじめ、婦人問題研究所長の藤田たき先生の有意義な御話を伺い、そして委員の皆様の御紹介がはじまるや、各方面に御活躍の諸姉の後輩に対する懇談や、御激励の御言葉が自然にほとぼり出る。三十年度奨学金の応募者は、学生六十四名、研究生十二名で、大要優秀な方が多かつたので、委員会を度々開き、考慮を重ねたが結局決定が困難であつたので、遂に、各大学の推薦順序を最も尊重して、最後決定をした。殊に研究生の方々に對しては優秀をつけ難かつたので、研究内容を主としたものではあるが、今回は、若い方には次の機会に、ということでも長い間御研究に従事して居られる方々に奨を差上げるようになった。

委員会としては数人の補欠をも考慮してあつたのであるが、残念ながら予想以上に御金をつくる事が出来ず、今回は、学生二十六名

中山久子さんは昭和十年日本女子大学家政科卒、昭和十六年北海



(中山久子氏)



(坂宏子氏)

A. A. U. W. 奨学金受領者一覧表

出身大学別	1950	1951	1952	1953	1954	1955	1956	計
大学名								
日本女子大	1	1	3	1	1	1	1	9
津田大		1		1	1	1		4
お茶の水大	1					1		3
東京女子大	1				1			2
奈良女子大		1						1
大阪女子大		1						1
早大(青山)			1					1
計	3	4	3	3	3	3	2	21

専門分野別	自然科学系	人文社会科学系
21	11	10

J.A.U.Wへの要望

副会長 井上秀子

このあいだ迎えた一九五六年も早や三月経とうとしている昨今、各支部ではどんな構想をもつてどんな出発をなさいましたかと非常な興味と期待をもちつておられます。新春の会報で数ヶ支部のお考えや御活動を知ることが出来て心強く存じておりますが他支部については来月総会の折承れることと楽しみにして居ります。と申すのは、近年のわが大学婦人協会は活動の分野も種々の面にひろげられてまいり、又J.A.U.W.加盟による務上からも以前とは様子が変わつてまいり、従つてちがつた考察を刺戟される筈だからでございます。私は、こうして会が、良かれ悪しかれ、大きく一廻轉するかに見えて、本会が本来の目的を見失つていないか、又先任の役員や会員の方々の植えつけた大会の特色をゆがめて来てはいないかと反省せずには居られません。即ち、政治、宗教、出身校を越えて一致団結し、無私奉仕をすべきであることは申すまでもございませぬ。が、その所謂よき仕事を為すために、会員が本当によく話し合つて来たか、従つてそれは多数の納得のいくものであつたか、猛省する必要があつたと存じます。又、本会は共同団体である為、その利害も平等に享受すべきでしょう。本会會員の共助活動により生ずる利益を、断じて一身又は一校の為に引導することがあつてはならないと思ひます。又政治的興味の具にしたり、パブリシティの具にしてはいけな

いのは勿論です。例えば、ふとある機会にある方面の仕事をしたら、なかなかパブリシティの効果があつたからとそれに深入りし、その部の本来の活動分野を離れる様な事は、反省を要します。本会には、他婦人団体とは自ら異つた使命があり、その活動分野にも特徴がなければなりません。紙面の都合で具体的に多く述べられませんが、ほんの一例として、本会としては後輩たる大学生の最も困つて居る問題の調査等により出して、彼等の修業を円滑に進展せしめ、その大成に助力し、真に思慮深い大学婦人層を作ること、本会らしい仕事の一つではありませんか。尚、前記納得という事に關連して、本部、支部間の批判という事を考へますが、これはあくまでも、建設的な批判であり、勇気のある実行性の伴つた批判でありたいと思ひます。これも、大学婦人の当然の責務でありませぬ。いづれ、不完全な人間同志の行い、す事柄故、私達はつらい事ながら自己の深部の痛みの所に素直に目覚めるのでなければ、決してよい共同は成立し難いと申したいので

I F U W 総会 出席について

今年の八月四日から九日にかけて、世界大学婦人協会連盟の総会がパリで開かれます。役員会では費用の調達が出来た場合には、国際委員長の高野フミ子氏を代表員として派遣することに決定いたしました。

総会は三年に一回開かれるもので、I F U Wの主な事項を決定する会議であります。

東京支部總會 御案内

東京支部の皆様が機嫌よくお越しの事を存じます。さて、支部總會を左記により開催致します。何卒万障お繰り合せ新入会員お誘いの上振つて御出席下さいませ。

日時 四月七日(正午)より
場所 日本女子大学山道
ヒマラヤの旅(午後三時)
講義 カラースライド使用

会費 二百円(昼食・茶菓)
御出席の有無は四月三日迄に、渋谷千駄ヶ谷一ノ五六二津田英語会構内、J.A.U.W東京支部宛にお知らせ下さいませ。

支部だより

しずおか

当支部もすこしずつ動いてまいりました。少人数の上に出席者も少くもさきやかな支部ではございませぬが、会員の心の通ひ合った生きた支部になりたいもの切願して居ります。

準備に一年かかつた様な形になりましたが、企画、財務、奨学と三つの委員会が出来、それぞれ委員長もまきまきして新しい気分を発足いたしました。

毎月役員会と例会を交互にいたして居ります。楽しい会、魅力のある会、会員が相互に育つ会、そして正しい事、よい事にも勇気を出して協力出来る会そんな会にしたいとほつきつて居ります。

支部長には力がございますが、会員の愛情と協力でつとめざるを得ないと思ひました。温い御心で見守つていただきたく心から願ひ上げます。

びろしほ

昨年の再発足以来、十二月現在で会員数は二十五名となり、次回一月例会では、ぼつぼつとまとめた新入会希望者をまともて紹介出来る行事予定があるの追々に盛大になつていくこと、一同張り切つて居る。

去る十月の例会で、私共が今少しばかりの提供出来るものは、少い事から、市内に数多くの婦人団体があるけれども、半官製のものばかりは、真に自主的な横の連絡乃至は志を同じうする者としての協力体制は出来て居らず、折角のよい仕事も力が弱く恨みがあるという事に言及した。そこで先ず本会がそのきつかけをつくらうではないかという事に決り、計画を進めて居た。その何度目かの準備会議のさ中へ、広島アメリカ文化センターと森戸大学長より前後して、二週間にわたる二人の有識米国婦人の来広及び、その方々を囲む婦人懇談会をアレンジして一人は「世界の経済」の共著等で夫妻共に経済学者として知られるジョン・ホプキンス大学のウオイ

学校教育委員会 挨拶

委員長 神崎かほる

本会学校教育委員会としては、現在日本の学校教育の直面している諸問題について、その深い苦悩を共にしているのですが、それについても痛感することは、私共の微力な点です。唯期待は将来にあつて諸事業に御援助下さるようお願いいたします。

最後に前号会報での救済会の報告中に「ユニセフ」からのがもれておりました。勿論私の控へ帳にはありましたが、うっかり致しました事を御詫言上げます。左に、長崎の子供たちの手紙を三つおせまして、喜びを御分ちしたいと思ひます。



写真(上) 救済物資であたたかい御昼食
西彼軒郡香焼村に於ける長崎支部佐世保地方会員 右より磯島、小出、芳賀松永の諸氏
(右)山積された救済物資

婦人地位 向上委員会動向

委員長 松本喜美子

◎養禁禁止法制定促進委員会のメンバーとして
本年度こそこの法案を通そうと冊程の婦人団体で右の会を組織した。ヘッドは橋岡の久布白落実氏である。昨年提出法案の再検討、一部改定、世論喚起の爲の映画製作等に努力し、熱意をもつて支持している。

◎全国婦人議員大会に参加
去る二月初めに開かれたこの大会には、本協会が実行委員にあげられ、上野、尾高両委員が、婦人議員の為に、割りあてられた仕事を働いた。尚、本協会代表として、加藤、高藤両氏が参加した。婦人議員や教育委員の中には、会員としての有資格者が多く居られるので、その方々を囲み、かかる社会的ポストにある婦人達の、後輩に対する助言指導を得る懇談会を持ちたく思つたが、お互いの繁忙の為、実現出来ず残念に思つて居る。

◎自民党提唱の小選区制についての話しあい
この、現在の政治上の大きな問題につき、有権者同盟を中心に会が持たれた。これは五団体の参加で、上野氏が代表で出席した。

◎家事審判法一部改正の委員会に出席
この事に、婦人団体から、参議員の法務委員会に陳情した。家事審判法をより合理化するため本協会もこれに参加し、尾高氏が代表で扱つた。

長崎の子供たち

このたびは結構なものをいただくと思つております。誠に有りが度う御座いました。

ほかの皆が、きれいな洋服を着て暖かそうにしているのを見て、私達給食の人達は、うらめしうに見ながら「あ、こんどの正月もいつものとおりでございませぬばならない」と、正月のくのをうれしいような、いやな気持ちで待つていた時、みな様方へ送つて下さつた品物、ゲタ、くつ下、上着セーター、ズボン……等と色々な物を先生が持つて来て、くばつてくださった時の喜びは、どんなに大きかつたでしょう。

その時、皆の心には一つの希望がわいて来ました……それは、みな様が、かわいそうにと送つて下さつた御恩を忘れずに、一生懸命に勉強に身をうちこみ、大人になつたらば、気の毒な人達

あめりかのみなさん、くしとはぶらうちへもつてかえります。かあさんもおねえさんともおこさつた品物、ゲタ、くつ下、上着セーター、ズボン……等と色々な物を先生が持つて来て、くばつてくださった時の喜びは、どんなに大きかつたでしょう。

その時、皆の心には一つの希望がわいて来ました……それは、みな様が、かわいそうにと送つて下さつた御恩を忘れずに、一生懸命に勉強に身をうちこみ、大人になつたらば、気の毒な人達

ボケットにいれてかえりました。佐世保市立春日小学校一年生 よしずえ かつよし

わたしたちは、ばたーをばんにつけて、きゆうしよくのとき、いただきます。

とてもおもしろいけれども、くつ下は、いつもたくさんおこつていただいて、ありがたうございます。

一ねん三くみ いで のり子

みなさまへ

後記
毎度年々、後ればせの会報発行、しかも原稿は切捨御免、次年度からは面目一新致しましょう故、どうぞ、それに免じて悪しからず。(杉森記)